

# PREPARATION IN ADVANCE

## — 冬交流の準備 —

### RECRUITMENT — 新メンバー募集 —

冬交流のメンバー募集ではTwitter、Facebook、Instagramを活用し、メンバーを募集しました。SNSでは、交流での経験をこまめに投稿し、多くの人にあいでみを知ってもらったり、興味を持って貰えるようにこころがけました。今回募集にあたり、高校生がよく使うInstagramやTwitterを多く活用したことでたくさんの方に発信できたと感じています。しかし、冬交流メンバーの募集期間の中でも始めのほうは投稿が少なかったり、学校での呼び掛けが足りなかつたのでなかなかメンバーが集まりませんでした。最終的には予定以上の応募がありましたがもう少し早くから呼び掛け方法や投稿の分担など細かく決めていればよかったと思います。よかったですや改善点を踏まえ来年度に活かしていけたらと思っています。

## LOGIC-MODEL CAMP — ロジックモデル合宿 —

私たちは11月上旬からテーマの話し合いを始めました。OBの方からアドバイスを頂きながら、何をしたいのかを話し合いました。

そんな中、11月31日、12月1日にロジックモデル合宿（自分が取り組んでいるプロジェクトを深め、整理し、共有することで、より良いものにしようという活動）に参加しました。

テーマ決めにあたって対象者を決めたり、目的と手段を考えたりと、より深くテーマや私たちがしたいことについて考えることが出来ました。中には、フィードバックを受け、考えが浅かったことを実感させられ、悔しがる姿も見られましたが、とても意味のある活動だったと感じます。

合宿終了後、得たものを他のメンバーにも共有し、このモデルを参考にしながら私たちのしたいことについて再度話し合いました。

2月最初のミーティングで「中国のありのまま」情報を実際に見て持ち帰り、みんなに伝え、その情報を持った上で考えてくれる人や関心をもってくれる人を増やすことを最終的な目的に決めました。

## FINANCE TEAM — 資金係 —

私達資金班は企業協賛班とクラウドファンディング班に分かれて活動しました。企業協賛班は、12月上旬から渡航前日まで活動していました。多い時は1日10軒ほど回りあいでみの活動に賛同してくれた方に協賛していただき活動を多くの人に知ってもらえるよう、資料を置いていただくということをしました。反省点は、緊張からなかなかお店に入れなかったことです。しかし、アポを取らずに訪ねていたのにも関わらず、優しく対応してくださったので落ち着いて話すことができました。

クラウドファンディング班は期限通りに事が進み、順調かと思われました。しかし、やはりお金を集めるというのは難しく、最終日によくやく目標額に達しました。企業協賛並びにクラウドファンディングにご協力していただいた方々、本当にありがとうございます。

## TRAVEL GUIDE TEAM — しおり係 —

私たちしおり係は、あいでみの活動をみんなに身近に感じて貰うために持ち歩くしおりを作ることが役目でした。私たちの反省は、お互いなかなか事務所に行けなかったりして作業が遅れてしまい、渡航直前で作業・完成した事です。作業自体は、みんなから集めた自己紹介などをコピペしたりパソコンで調整したりするのが主だったので、もう少し早めに始めて完成させほかの班のお手伝いに回れたら良かったなと思います。

しおりを作る上で注意したことは、ただ作るだけで終わらせずに頼りがいのあるものを作ることです。例えば、中国渡航ということで中国で使われている元の表や言語を日本語訳と共に載せたり、自己紹介文を英語にして個人個人の写真を載せたりして工夫しました。また、持ち物も機内と預け入れ荷物に分けて表にして載せました。渡航前に無事に完成させることができ、みんなにも喜んでもらえてとても良かったです。

## ADVERTISEMENT TEAM — 広告係 —

広告班ではミーティングや他の班の活動を三種類のSNSで宣伝することで周囲の人々に「あいでみ」というプロジェクトを知ってもらい、それを見た人達が日中関係について考えるきっかけになればいいと思い努めて活動してきました。多くの人が使うSNSで宣伝することで1週間毎におよそ600人前後のリーチを獲得することができました。

この活動で私たちは2つの苦悩がありました。

1つ目はSNSを見る人達にどのように伝えていくかということです。どのように伝えるかはもちろんどのような人達に伝えるのかということにも悩みました。SNSごとにどんな人達が利用しているのか、どんな時間帯が1番利用しているのかなどを考えて日々工夫をしていました。例えばInstagramだと若い人達へ向けて綺麗に撮れた写真を使ったりと工夫しました。

2つ目は相手に合わせた言葉遣いです。三種類のSNSは年齢層が違うためどのような文の構成にするかというのに、何回も話し合いました。

苦悩の他にもよかったですのがひとつあります。それは役割分担です。毎回誰がSNSに上げるかということで話し合いをしていましたがカレンダーをつくり効率よく分担出来たのが良かったと思います。

## **SCHEUDLE TEAM** — スケジュール係 —

私たち、中国側と連絡を取り合い日程を決定すること、また、ディスカッションのテーマを決定することが主な仕事でした。

私は、全体での反省にあげられたようになかなか活発に活動を行えませんでした。その理由として、1人1人が「あいでみ」というものを理解しきれていなかったことが大きいと思います。みんな初めての経験だったこともあります、「あいでみ」は自分たちで作っていくものという認識が甘く、この班の重要性を理解出来ていませんでした。この事に気づいてからはリーダーを中心に話し合いを重ねていきました。そして、中国側にリードされながらも、ディスカッションは『ゴミ』をテーマに話し合うことを決めました。幸運にもスケジュール班のリーダーは中国語を話せたため、彼のおかげで活動の遅れも多少は取り戻せたと感じます。リーダーは不器用ながらも責任感が強く、班のみんなを引っ張っていってくれました。

中国メンバーとSNSを通じて会話している時には、まだ会ったことの無い中国の学生に不安を感じながらも次第にワクワクした気持ちが高まってきました。実際に中国に行って会った時には、思っていたよりもフレンドリーなメンバーに安心しました。

今回の活動では、最初スケジュール班が積極的に活動出来なかつたことで滞ってしまったこともあり、反省点も多々ありました。意味のあるものになったのではないかと感じます。

# WHAT WE DO IN WINTER

## — 冬交流 —

### INTRODUCING OURSELVIES — 1日目 —

初日、復旦大学附属中学（日本の高校にあたる）に着いてまずは中国の高校生と初対面し、一緒に夕食を食べました。会ってすぐだったためか、お互いに皆緊張しているようにも感じられました。そこではまず同じテーブルの高校生同士で自己紹介やお互いの趣味について自由に喋りました。始めは日本メンバーは英語で話さなければいけないことに焦りを感じ、中国メンバーは日本メンバーが英語をあまり喋れないことに戸惑いを感じました。しかし、だんだんと話しているうちに、国は違えど同じ人間で、同じ高校生だということを実感しました。

その後に全体で自己紹介しました。全体ではより緊張感がある中でそれぞれが自己紹介を行いました。そこでは、驚いたことに中国のメンバーで日本語で自己紹介する人もいて、三ヵ国語が話せるメンバーもいました。日本の高校生と中国の高校生の学習力の差を実感した歓迎会でした。

## DISCUSSION IN DAY 2 — 2日目 —

ゴミの分別という大きなテーマから、教育やリサイクルといった5つの細かい分野にチームを分けてディスカッションと発表を行いました。4泊5日の行程の中でディスカッションに費やせた時間は1日と少しでした。中国メンバーがリードする形でディスカッションが進み、どの班も語学力の差に悩まされました。言葉がダメなら別の方を使つて何としてでも自分たちの考えを伝えたいと奮闘するメンバーでしたが、中国メンバーに理解してもらうことに一苦労、相手の考えを理解するにも一苦労で、時間は風のように過ぎていきました。自分たちがやっていたのは本当にディスカッションだったのか、もっと自分に出来ることはなかったのか。やりきれなさを感じながらも迎えた翌日の発表は、どことなく自信なさげな姿も見えましたが、受け持つたメッセージを読む姿は堂々としていました。

## SCHOOL EXPLORATION!? — 学校探検 —

2日目の夜に中国メンバーが校内を案内してくれました。復旦大学附属中学の校舎はとても広く、棟がいくつかに分かれています。日本の大学のような作りです。廊下には電子パネルの画面に学校のニュースが映し出されていました。教室の鍵なども電子化されており、中国の電子技術の発達には目を見張るものがありました。さらに行つた時期がクリスマスだったということもあり、校内はクリスマスマードに染まっていました。話を聞くと、全校でクリスマスをお祝いするそうです。外にはバスケットボールのコートがあり、日本メンバーも中国メンバーと遊んでいる人がいました。

また、文化祭が近いということもあり、準備をしている様子も見られ、私たちが通っている高校と同じような光景も見られました。

今回は授業を見学することは出来ませんでしたが、校内を回っただけでも日本との共通点や大きな違いまで見つけることが出来ました。

さらに、それぞれが良いコミュニケーションの場にもなったと思います。

## **FIELDWORK IN DAY 3 — 3日目 —**

フィールドワークでは、上海市内のゴミの事情や取り組みについて学びました。最初にゴミや動物の糞を肥料に変えることを学べる広場のような場所へ行きました。そこでは、ダンボールを指定の場所に入れることにより、ポイントを貯める事ができるシステムを備えた機械を目にしていました。貯めたポイントは、バスなどの公共交通機関の支払いに使用出来ることから、とても便利だと思いました。

次に、ゴミの分別に関する展示がされている博物館へ行きました。上海でのゴミの歴史に関するビデオを鑑賞し、ゴミの焼却のされ方展示などを見学しました。展示の中で、各種類のゴミごとに放置されてから分解されるまでの月日が書かれていました。今、問題としてピックアップされているプラスチックゴミだと、100年～1000年程分解するために時間がかかるなど、自分たちが思っていた以上に多くの時間を要することに驚きました。

上海の取り組みを実際に目で見て知ることができ、ディスカッションを進める中での多くのヒントを受け取ることのできる良い時間になりました。

## **CHINESE DAY ! — 4日目 —**

私たちは中国渡航を通して、日本にないものや中国の文化を知ることができました。中国は人口が多いことから自転車やバイク専用の道路があったり、雨の日は傘を店先や入り口の床に置いてあったりと様々な発見がありました。また、都市部には大きな絵が描かれたビルが林立していてとても発展しているという印象を受けました。寮での生活では、ホテルのような設備で安全に楽しく過ごせました。夜は各グループで遅くまで話し合い、次の日に活せるアイデアを出し合ったり、1階の広場で全体ミーティングを開いたりしました。

夜には、中国メンバーがお別れ会を開いてくれました。ここで最も印象に残ったのが、歌やダンスを披露してくれたことです。ダンスには日本メンバーも加わり、楽しい時間を過ごすことができました。また、日本と中国のお互いの国のお土産をプレゼント交換という形で渡しました。しかし、それ以外にもたくさん目の見えないプレゼントをいただきました。

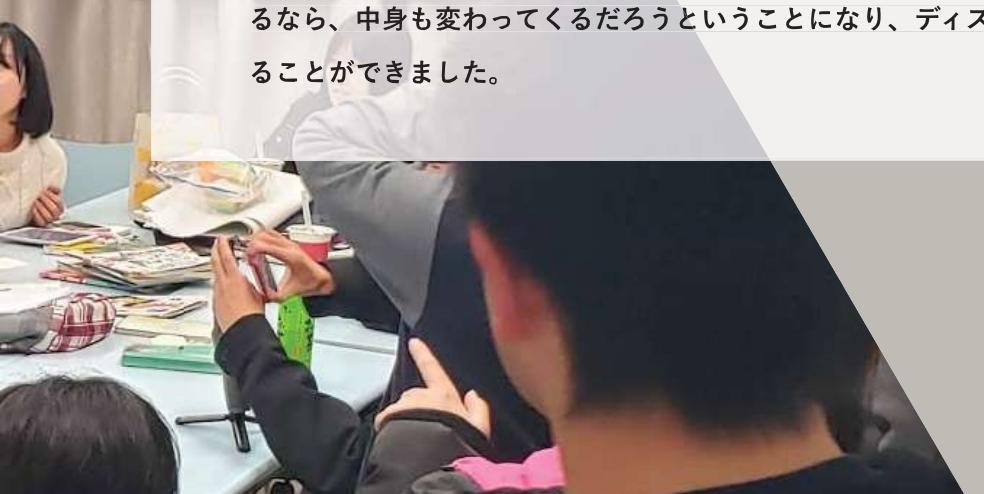
## CONFLICT! — 対立 —

How to educate students  
to do the garbage sorting

あいでみ史上初、2グループでテーマが被るという事件が発生！中国メンバーと日本メンバーの意見が対立してしまいました。

淳志君が、「テーマをもう一度考え直してほしい。」と中国メンバーに伝えると...「お前は○されたいのか！？」と言われて一同は笑いに包まれました。

その後、なんとか淳志君の説得のおかげで、お互いグループの討論で結論が異なるなら、中身も変わってくるだろうということになり、ディスカッションを再開することができました。



## UNEXPECTED HAPPNING!? — 珍事件 —

遅刻 ...

出発当日、渡航に胸をわくわくさせながら駅に集合する中、あるメンバー1人の姿がない。そう、遅刻だ。寝坊したとの情報が入り、焦り出す一同。「間に合ってくれ！」と願い続けた結果、なんとか新幹線出発ギリギリに間に合うことができた。

スマホポチャリ ...

ディスカッションからフィールドワークまで、特に大きな事件を起こさず順調に活動してきたあいでみメンバー。だがしかし、事件は帰国日に起きた。帰国するため空港に向かう前にトイレを済ませてきたあいでみメンバーの1人が、慌てて出てきて、何か様子がおかしい。そう、スマホをトイレの中に落としてしまったのだ。急いで取り出したものの、電源が入らない。故障だ。結局治らず修理に出すこととなってしまった。トイレでのスマホの扱いには十分気をつけましょう。

# DIFFICULTY OF DISCUSSION

## —ディスカッション—

*use  
Ant Forest" on Ali.  
&  
Sending old clothes to  
poverty-stricken areas.*

### GROUP 1 — 1班 —

1班は、教育の観点からゴミ分別の普及方法を考えました。

中国メンバーは、明確な利益がないと普及しないと主張し、日本メンバーは、教育で価値観から変えないと意味がないと主張しました。最終的に、価値観が固まつた大人の世代には中国メンバーの意見が、まだ若い新世代には日本メンバーの意見が適しているため両方を同時に行おうという話になりました。合意形成ができて気分が良かったですが、難しかったのはそこからでした。価値観の違いによって、私たちの教育的な解決の話がよく伝わらなかったのです。とてももどかしかったです。結局、ディスカッションの最後までお互いにクエスチョンマークが浮かんだままでした。最初は、自分たちの資料の準備不足や目的意識の低さ、積極性、言語能力の差が大きな原因だと思いました。しかし、本当は価値観の違いだったのでないかと気づいたのです。あらゆる点で、お互いの概念にないものがあったのだと思います。そう考えると言葉の違いなどは、小さな問題に見えました。言語などは、どちらかの頑張りでも解決することができたと思います。しかし、価値観の違いは、双方が歩みよらないと絶対に解決できません。価値観の違いを生む社会的な背景を理解する必要があるかもしれません。あるいは、その概念が相手にはないと理解するだけでも充分なのかもしれません。

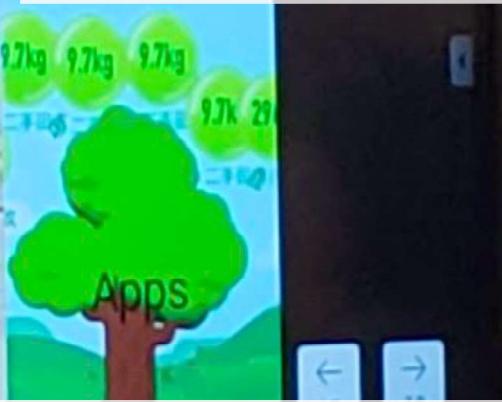
## GROUP 2 — 2班 —

私たち日本メンバーは歴史面からゴミについて考え、お互いの持っているものについて意見を出し合い、視野を広げるという大まかな流れを考えていました。

しかし、ディスカッションのテーマ決めの段階で中国メンバーとの考えが一致せず、中国側が提案したテーマが他の班に包括されてしまうというディスカッション以前の問題が起きました。

最終的に日本側の提案が受け入れられたものの、情報の翻訳に時間をかけすぎてしまい、意見交換を活発に行うという場面はありませんでした。

しかしながら、私たちの班は意見がぶつかり合っても妥協せず、より良いものにしようと問題が解決するまで話し合うことで、自分たちがその時できる最高のプレゼンテーションをすることができました。そして、たとえ意見が一致しなくともお互いに意見を伝え合うことで、「必ず思いは伝わる」という大きな学びを得ることができました。



## GROUP 3 (DIFFICULTY) — 3班 —

私たちの班での苦悩は、2つあります。

1つ目は、交流初日から中国メンバーと日本メンバーでテーマについて意思疎通ができていなかったことです。そのため、ディスカッションが始まる時にお互いの捉え方を揃える必要がありました。「どう伝えたらいいのか」「どう話したら伝わるのか」中国語や英語の言語の壁に班全員で考えました。

2つ目は、ディスカッション中に中国メンバーと日本メンバーで別作業することが多くなってしまったことです。1つ目の言語の壁に加え、中国メンバーの仕事効率の高さに圧倒されてしまい自分達が何をしたらいいのか分からなくなることが何度かありました。「どうすればディスカッションになるのか」自分たちなりに課題や改善策も考えたりしましたがあんまり効果が出ず、作業中に自分達の意見を言えず中国メンバーに頼る部分が増えてしまいました。その結果、自分達は役に立っているのか不安になりました。

## GROUP 3 (AWARENESS) — 3班 —

また、私たちは、ディスカッションから2つのことを学びました。

1つ目は、積極的に意見を伝えようとしたり、出し合ったりすることの大切さです。まず、私たちの中に「言語の壁があるからできない」という思い込みがあり、最初から諦めている部分がありました。そのため、〈苦悩〉にもあった通りお互いに意思疎通ができないなく、別作業になってしまふ場面が多くありました。しかし、最後の2日間は自分たちも気持ちを切り替え、積極的に意見を伝えようとしたところ、言いたいことを汲み取ってくれて意見を出し合うことができました。

2つ目は、お互いに意見やゴールの共通確認をすることの重要性です。私たちは、交流前からオンラインで連絡し合っていました。しかし、そこでうまくこのグループがやるテーマを共有することが出来ず、事前の調べ物も意見の交換もあまり役に立つことができませんでした。私たちは中国に行ってから、テーマを共有し、タイムロスをしてしまいましたが、逆に気付くことができました。

## GROUP 4 — 4班 —

4班では渡航準備段階、ディスカッション中、発表の3つのテーマから大きく2つの反省が上がりました。

1つ目は語源の壁です。3Rというテーマだったため日常会話とは異なりわからない単語が多い中自分達で事前に調べなかっただためディスカッション最中にとても苦労しました。また私達の思っていることをそのまま伝えられずもどかしい思いをしました。

2つ目はディスカッションの目的を忘れてしまったことです。3Rというテーマに囚われすぎて根本を忘れていました。そのためディスカッションが比較だけで終わってしまいました。

この反省から私たちの班では下調べの大切さ、言語はもちろん英語が話せなくともジェスチャーなどを使い伝えようとする心の大切さ、逐次目的などを確認することが大事なのだと思います。また、このディスカッションで班一丸となりプレゼンすることが出来たのはよかったです。

## GROUP 5 — 5班 —

私たちのグループは日本である程度目的に関する情報を集めて渡航に臨みましたが、いざ話し合う時に情報量が足りてないことに気づき、ディスカッションの時間を追加の下調べの時間に費やしてしまいました。その結果、解決策に時間を費やすことができませんでした。日本メンバーの中で出た結論を中国メンバーに伝え、その意見を中国メンバーの作ったものに取り入れ、まとめてもらう形になってしまい、本来の私たちのしたかったディスカッションの形ではないものをしてしまいました。プレゼンテーションをするのに私たちの班はパワーポイントとそれに関する台本を作ることになりましたが、どちらも中国メンバー中心に作成していました。日本メンバーは意見を出すだけになってしまっていて、共同作業になっていなかつたのです。

私たちのグループはディスカッションをする上で基本的なことができていませんでした。「下調べをあらかじめしっかりと行うこと」、「時間配分を考えてお互いに情報共有すること」、「それぞれの仕事を先に決めること」ができていなかつたからこそ、これらの問題が浮上し、より良いディスカッションにできなかつた感じています。

私たちは自らの意志で「あいでみ」というプロジェクトに参加しましたが、慣れない環境で言語の違うメンバーとディスカッションする事に大きな不安を抱えてしまい、「積極性」が欠けていました。また、自分がやらなくても他の人がなんとかしてくれるという「無責任な考え方」があったように感じます。

この反省から私たちは進んで意見を出すという様な「積極性」、自分の行っている事に対する「責任」が大切な事だと学びました。

# PHOTO COLLECTION

## — 冬交流での写真 —



